

コスモス 8月号

第67巻 第8号

◆宮柁ニカレンダ―(5) 八月の歌

夏ぐさに憶ひるにけり貧しかるわが若き日の

古き雄ごころ

歌集『忘瓦亭の歌』

昭和四十八年八月、第二回コスモス地方大会を尾鷲市岬の青年の家で開いた。五、六十名余の参加でじっくりやりたいといわれたが、百二十名にふくらんで叱られた。研究発表は杜沢光一郎であった。先生は全体のむすびで『獨石馬』にふれて、「この会でもって「コスモス」の第二の出發としよう」と告げられた。泪してきいた。「多磨」からの人達が相寄る最後ともなった。小休止のとき寒蘭が匂っていた。窓の方に目をとめられた。

(仲 宗角)